

(続紙1)

京都大学	博士 (地域研究)	氏名	上原 健太郎
論文題目	現代マレー世界におけるイスラーム型マイクロクレジットと実体経済 —動産担保貸付 (アッ=ラフヌ) の役割と動態—		
(論文内容の要旨)			
<p>本論文は、近年、イスラーム世界で取り組みが急拡大しているイスラームの理念にもとづいたマイクロクレジット (イスラーム型マイクロクレジット) の実践に着目したものである。とりわけ、マレーシアとブルネイで新しい金融手法として注目が集まっているアッ=ラフヌと呼ばれるイスラーム型動産担保貸付手法を取り上げ、この手法の人々の資金調達行動への影響を分析する。そのことで、アッ=ラフヌの実態の全容を解明し、この手法のイスラーム経済論的意義を明らかにすることをめざした研究である。</p> <p>本論文は、5章から成り、序論と結論が付されている。</p> <p>第1章「イスラーム型マイクロファイナンス論の系譜とその特徴」では、イスラーム経済論における経済発展論の系譜とイスラーム金融の商業実践の沿革を踏まえて、両者を架橋する新たな実践形態として、イスラーム型マイクロクレジットに注目が集まっているという研究史的位置づけがなされている。</p> <p>第2章「現代マレー世界におけるイスラーム金融システムの発展とその特徴」では、マレーシアとブルネイのイスラーム金融の商業実践の沿革がまとめられ、両国に共通する特徴として、巡礼基金をその源流に持つ点、政府主導である点が挙げられ、課題として、生産部門への融資が消費部門のそれと比べて相対的に少ないことが挙げられている。</p> <p>第3章「イスラームにおける担保概念の金融手法化」では、近代以前のイスラーム法の担保概念に関する規定が、どのようにして現代のイスラーム金融における動産担保貸付手法に再構築され、実用化されていったのかについての分析が行われている。</p> <p>第4章「イスラーム型動産担保貸付の受容と経済活動への影響」では、アッ=ラフヌが実際に提供されているマレーシアとブルネイの金融機関における顧客への聞き取り調査にもとづき、彼らがアッ=ラフヌを利用する動機や用途に関する分析が行われている。そこでは、顧客は、家族・友人からの借り入れや銀行の個人ローンの代替手段としてアッ=ラフヌを利用しており、その用途は単なる消費のみならず、企業の事業資金にも広がっていることが明らかにされている。</p> <p>第5章「現代マレー世界の開発におけるイスラーム型動産担保貸付の役割」では、マレーシアとブルネイの開発政策の沿革を追いながら、近年重視されるようになっている中小企業振興において、アッ=ラフヌが重要な役割を担っていることが明らかにされている。</p>			

結論では、論文全体をまとめ、アッ=ラフヌが生産目的にも利用されている実態は、消費金融の手法と従来見なされていたイスラーム型動産担保貸付の位置づけの転換を促すものであり、これはイスラーム経済論自体の議論枠組みの変容にもつながるものであると総括されている。